

諸預言者の歌頌

(大齋中の早課規程の句)

大齋中の早課規程を行う時、三歌齋經と併せて用いる為のものです。

三歌齋經が指定する歌頌は、その日により異なります。指定された歌頌を参照してください。

三歌齋經に載っている讃詞の数を確認します。頭に赤字で“イルモス”とあるものは数に入れませんが、同じく赤字で“生神女讃詞”とあるものも除外します。

「諸預言者の歌頌」のそれぞれの句の後に、「三歌齋經」の讃詞をひとつずつ挿入して読んでいきます。ただし、殆どの場合讃詞の方が少なくなります。その場合、「光榮は父と子と聖神に歸す」の句の前に、最後の讃詞が入るようにし、始めの方の句には讃詞を挿入せずに句と句を続けて読むようにします。讃詞が5つ載っている場合、⑤とある所から讃詞を挿入し、それ以前のは句のみを続けて読んでいきます。

それらの讃詞の後、三歌齋經に載っている“三者讃詞”とそれに続く“生神女讃詞”は読みます。

①の讃詞を読んだ後、

「光榮は父と子と聖神に歸す」(第八歌頌のみ「我等主なる父と子と聖神とを崇め讃めん」になる)

三歌齋經に載っている“三者讃詞”

「今も何時も世世に、アミン」

続く“生神女讃詞”

続けて「我等の神よ…」以下があれば、そのまま読みます。

最後の“イルモス”は指定された調に従って歌いますが、そのまま読んでも構いません。

上記の方法は「大齋第一週間奉事式略」の方法に倣っています。

②

句) 惟^{ただ}イズライリの^{しよし}諸子は^{うみ}海の中に^{なか}乾^{かわ}ける^ち地^ゆを行けり。

①

